月明下・敵基地爆撃に向ふ荒な際軍者後関西

來心血を注ぎ資成した樹氏」「百萬

が目号めてをれば難じて兵を進め

の機能を保施する以外に何ら中國 ある。その複雑は米英の東距段略 重要は、今また洞庭海附近におい

新作版をなんと見るか、米英は、子の河南作版とおいて新作版とおいて新作物が原明、五、の河南作版とおいて新作物が原明、五、の河南作版とおいて新作物が原明。

その途が開けてある、この対節新りれ中國の脳立自由獲得は完全に

一般によって保御されてゐる米爽朝

国は巡し得ずその物性は米英の

部国際の販売をつぎの道り報道し べから世島盟 ひを題門

記者ハンメル大佐は三日東

マツスイ北方地區における処軍

・うても十一台を戦略した。一 方類空甲は赤田の集劇部除を攻 がして赤田歌車十七台、東側九 門、自動車八十台を撃破した。一

一百および一百夜四歌占領地

を攻戦してゐる、又カンボレヲ

就機计機を含む政機計

【ベルリン三日間恩】郷統大本館

である。何となればその話回は哲

は、戦るところか、形ろ形骸にな

對米英の軍事行動

日本の封証新政策は逐次既行せ

てかしと感じて「紹介石が一敗年」 出て野軍墜特別放送を行び「層」

の非を崩烈に指摘したが、三日夜 と國土民衆を苦悩せしめつくある

て大打脚を受くべきことは必至で

重盛の同胞よ、重優はこのたび

南京四日同盟」國府整督人は今日文の第六、第九國際国とお一なかったであらると抗衆市隊の

さきに河南作脈に大打撃を受けた

を 関付を 一人の 放送原言 次の 通り 非をならし紹介石の猛笛を受跡し

駆け今日の状間とおいては民族は誰でも知つてゐる、邪魔の抗

控へ目にして來た、今回中國現象

しば消酸の反省を促し組取行動も

く大規模な世事行動を開始したが

重慶の抗戦は反逆

鹽州重慶の猛省促す

一躍はこの事理を整臓し得ず、 あり、空管をもつてわれくを敗 政策は確同をる内容をもつ事質で

> 抗戦の無意義を悟れ で映像しないからである

るに重要が博物学数を発性にし

るであらるが、今や電気を高は最

と共同作品して一環語が烏鹿を見

れわれは最後に重要制して不識の

ならびにルーマニヤ軍は激制の、ヤツスイ西北方において脳軍

ユダヤ的性格の特主をる米英

大段心をなすべき状である、重盛

といふ反歴史性の政策にこびりつ 政策をもつて凡ゆる後代と に削削する決心と関系である。

に必要なものは此路でもなければ一かないよう哲学する

有力部隊を粉碎

獨軍、赤軍陣地へ突入

不関係解放し、百ペンガリ

力を軽備こそすれ中國領土生活は一ふならば彼こそ完全な腎臓奴であ

借款でもない、 正と世界史の潮流

殿官を特別以土院内に設立、今世担谷宗一氏が記住、禁管り限

3

つかねばならぬことは整門を受しないところで もこの戦局の瞬動に前題、身を挺してこれにつ

い同的党所官制を附降決定、五日

してある、腕に笑ふべく嫌むべき 的に来英に自らの一切を確性に供 米英の走狗を痛撃

ひな点息収が、五月中旬四部~二 に上陸した有力なる敗部院を破断

好機を確認して断手側の魅力を階級長が五月廿日流へたく今や正に

ては繰返して遊べたのであるが、

正すべき脳が形を割いのである。 これを示ふと表現後國民の服場に 今日の我々にとって最上の歌訓で

所関和限と称するもの、また半

は意味らない意味がに到るないのならぬから別れないのである。既らと同様に、例えなる者にとって、我能はいつ散然として、時をなば

である。平和時代にはいかに破突の空間に必ず強弱があるとは惹へ

現はれたる日常生活の理念には訳 なければならない。されを根ひ、 装束でなくては飛び込めないのも

第する心理も京を理解出来るので<br />
にも内地及び半島は敝の間接攻壁

のであって、國民がその服装に執

島原将兵の退職によって、密ひ

吹するであらう。 り、かつ我身一つの配き場にも出

経に至って、またが人がモン

中國の生命を要求し中國の概立自

医において反倒軸取部隊を攻略

機関ならびに夜間

哩で阻止

海軍高財的隊はクレタ恩沖合に一、郷館送船盟の節節階段および

を解退機を確認した

And And

即刻迷夢より覺めよ 職に窓路ありや否やを考へて異

ものであることをも縦膜立てるもっかり身を問めねばならない。

中へも残込める穀物に換へて、し 郷なく睨言語で、今日只今、俗の

きるが、物には時と所を担てはじ及び結盟を受けてゐない。しかし、

めてその意質を授揮する特性があ

原版及び各種の條件と見るとき、

に立つ。男子も、和服なれば简純 物といふ姿をして往來するのが自 べ輸用を怠り、長い紬に、大きな

きうでない。これははちが感であ にモンべであるべき簡を、殆ど

関数し、東亜の民衆を観戏するこ 英の世界的操脈保備に動員する必 田殿は何が対と國の人民の問と

物がかくる過ぎを起し一切の原則

映からの前を表道によれば、同

文献选品

決戦下と於ける服装の間線に就

四日の大本監督製は、武烈をぐ 蹶起せん

るが、斯人の如き狀態は異様意識

て収集をおけてあ

戦時の服装

戦果に應へ

流、監殿三妻、海よトラツク三妻

ねばならない。

砂るべきである。火用場には火事・事役平和な生活を享受しついけた 要に順じて服養が経度したものといかにも和手を受する國民であり

認

多歌館、郷産館一坂、磐安郎一型、その作戦を接げ、その寛歌に続いる歌館、郷産館一坂、磐安郎一型、その作戦を接げ、その寛歌に続い

半を確認し、更に強敵無論中であ 別がり物質さる際と切りて 所在部隊地に、ネーランディャ ユーギニヤ、ドル、河々口附近

格にはかくも工業時でして、 たものと思ふべきである。前親の 徹底的に物化せかといる際然を

る意理が、原場ごおいて見現され 破し、もつてその戦争総総双志を

ひを持つので、買ねて注意を喚起

であり、精心地もい。また向ふ

べき関税もあり、東洋が持つ高い

別は新理下に大河ノよい。それの、我は戦の治療に対して歌る歌歌を、出來てあるという人があるから知思は新理下に大河ノよい。それの、我は戦の治療に対して歌る歌歌を、出來てあるという人があるから知思は新聞で

入つてはこれが遅れがちになる感 に見せるものがあり、殊に数率に なほ場悟と緊張の足らなさを終骨

の感反攻を掛いてある。網径の一

した展弦をなし、棚夫が連携的な

かつ、この服職をもつ

一部人が競場を瞬間するに最も適 女化がこの原葉を完成したものと

西州では、「國家で省の機能地震を支援的した」の機能は他代所長大國大佐を迎く、ことを目的とと、明監験維護者といい。「一世の角部推進規則として明難談「七十八日朝鮮総将原第三世務集師」を國軍の文家及び養行に協力する

官氏一體、鐵増産へ協議會設置

脈道器を関り、自縦機器梁に関す

内における繊維産業の綜合的統

下の「健康事情が超級の別報視出ど」るため、「庭祭自動車連行杆を三動力単語製練の質様については、現」短時方面に最も高端に返距さしむ力単語製練の質様については、現」短時方面に最も高端に返距さしな。 

格奉告祭に夢町町に厳題、北道内

|における陰路を打開するため、新 | 年をもって契約期間が勝了するが

**茨山鎮坑間段 助成金変付 規則を** 

労務者の國家的意識の結構とその

関係により、関に契約期間を一年

照取上生産治院上多大の貢献をな 顕細な研究を進め決蔵下において

の大デマが飛びく米が大陸音を通り水位=三日米國に侵入作敗別始 道信社は三日癸卯『歐洲怪人反偏

【リスポン四日同盟】ニユーヨ 米で第一戦線騒ぎ

骨關

髓節

炎·骨軟化症

成與人【廿九日】

理的な経算基礎を確立して関格回

一島時務者の大半が本

總督、咸興神社へ参向

敗走したのみで大部分は水原でがわが設礎を終れてワクデ島に

| 東左領地よりの密度が釧路してあ | の郷上殿都殿を開設。引衛をティ東大を間にのほる引込みであるが | ヤカムル、テイタベ東方州キロ)

タペに対する攻略を恐怖中であり

ばならぬことであつて、彼等が

者に依存したらればならなくな

第7元第4と働いての3のを載し扱いを受けないためにはどうして かくて必ずな日料を終り年後四時でうれしく思うた! お鯵たればはらぬ所以を朝朝、城 五分級消炎弾車で百衲に随ったと簡優し来源から大・顔を聴き、知常の意象を吹込んだ!

送打合せ會議内鮮間貨車航

海影ではその重要性にかんがみ明 して死た、今回窓及中間的研究機

触度司令部形表、反指軸似はフラ

母の機成者金井良太郎別士の製薬

ンスに上陸せり。との大局報を全

ともに所質を陸海軍勝

質際面に活躍せしめ

米にばら揺いた、敷分後これが超

股立を見るに至ったわけで陸

釜山で開く

支略歴 階島際出

卒業、同四十四年一

しで放送してしまっておとの祭だ たが、新聞社は取消しが間に合ふ 報と判明してAPは喧ちに取消し

つた、全来はこの間段で呼ばの山 ものの放送局はこれをニュースと 炭質界の採貨頭化既衛に修み、合

懇談會開

一時から釜山殿道ホテルに開催 、釜田位記し釜田、内垣間を繋ぐ

め米阿に留場、四九年東京設師

航送打合せ回議は、四日子

この相ついく凱撒にわが将兵の意

トル河回世上陸の敵を撃攘 に大半強滅

、残敵を攻撃中

であり同國際に於て収めた製臭は一の微を殲滅、东た五月廿八日には一

局

工場を巡

作説の一層団優こくに見声に撲

同にかけてウラウ(アイタベ東方)

気は天を聞くの概がある

ピアク島上陸の敵部隊に對して

おいない

場においても岩井工場長の案内 日本炭系工業〇〇工場に向び同工 ついで影響を領へ、批写等を誤解

行び労励者住宅を職祭、高周沙病

現を観察したのち工員に訓酔を

際はさきに四月十六日より五月上 ない、ニューキニヤ戦級のわが部

五十キロ)附近に於て約一個瞬隊

我が部隊は『ホーランデイヤ』附近より朝進をる部隊と共に五月廿 日以來崩襲を反復し、すでにその大半を整滅、引續を残敵を攻撃 敵主力水際に屠る

主機がし去るとともに敵の軍砲戦一一帶の極主力の大部分を水陰に眩 地を完全に提慮した

森越飛に午前九時宿舎をたち日本

|工員に對し次のやうな訓話を行ひ|

決戦下高周波工業の東京性を帰り

この任務道限は静新岩が裏色が

殊解を作つてゐるのであるから

場を視察、森工場長の案内で職場。 後一時廿分以樂郎を競り雲林等を 院を見て仏楽部に引返し独食、年

今後朝鮮で掘り出した額は朝鮮

にある。日本高周波はこくで特 で原理して行かわばならの提明

工員のみにようてやって行く方一

にようて初めて出來るのである

て死てもらつて有難う、殊に暗 つたさらだが脱々日を軽へて出 總督、城津より吉州

織によって六月一日朝までに附近

がくてニューギニヤ酸級のわが がくてニューギニヤ酸級のわが

本取跡の説明を聞き、次いで役付し、歴知像材工場など各所を廻って杉 商用沙亞工學の〇工基本語等、原際工場、「學」

職米の熾烈なる反攻の回の中に三

ニューギニヤ臓器を解利の部隊高 | ホーランデイヤ、アイタペを中心 くよる、四月廿二日ホーランデイ ノイタへ附近で上原せる酸は 附近と気付けとなり元分な イタペ攻撃や準備 新上陸を試みつくあり、五月十七 日朝には戦争、管理大士な芸 とする西部ニューギニャの各所に ホーランデイヤ西方一百キロ、ト らんとしつくあった

ル河頭岸地島で上陸、橋頭壁を作

苦を克服レフつ前院側部をつざけ五月下旬よーギニャ酸線のわが将兵は選兵よくあらゆる 数一百キロト 治人口附近に上 り六月初頃にかけて四度大木密 陸せる統一個飢餓の有力なる政 侵攻の出版に開始を活動を

何に師く河南宮殿において阪第 部隊に鬼神の照護を浴びせ敗の 置は問題を容れず新たなる主 行通の産業を完成した支那級 機関路陽を攻略、ならに京家 殿園の野殿田を最減し、中 また大陸既線においては削船

一附近であった数はわが続き 雌に分配してトム神合ラケ

ずる所によれば意識な高はその極況公報で第九 て攻禦に戦移せんとするまさに歴史的な瞬間に ゐる如く大東距隔局は今や絶好の配機を捕捉し 即を徹底的に粉碎せんとしつ人あり」と述べて て断字殿の魅力を聴唆しもつてその戦争線額意 る跳示において、大原館威局の現政階を指摘し 『星軍は魔恐怖力を取へ今や正に好機を捕捉し

えて卅日他のわが部隊はトル河東 戦を求めて戦闘を続けてある。1

**だ強人、おが際は別郷金町** 

徳に朝からぬ配割を戦へつつある、 軍隊後間人 に大四配級のわず主動攻勢の助門はすでに 旗戦 國を東西に分配し、新たに急設された暗話地を 張平院は五月廿一日の記者<br />
照の見で『日本軍の 河南および御南の攻略ならびに掛らく他のいづ れかで問わなく開始されるであらう攻勢は、中

> を認んで軍大戦後を告げんとするわが戦略能機 一般動の豚更的先属をなずものであり、われく

> > 研究所創設型
> >
> > 甘萬圏を計上

東條参謀部長は五月廿日歐大卒戦勢生に對す 南太平洋に大陸に 相次ぐ皇軍の凱歌 酸陣営が鋭微にこれを感得するものであり、

敵陣管早くも動搖

服抗腎症命も大陸酸級のわが攻然に関脳し、 らしてをり、問題の米耐大統領ウオーレスの単 ついて劉徳、悲談阿治に分れて論母に火花を敬

までもない。すなはちニューギニャ酸線の凱歌 これが対策を

脈ぜんとする

にある

こと

にいる

立つてをり、大鬼胆曖륭に飛躍的一級を鳴すべ 取級に、また大陸戦線に相ついで難つたこの歌 かくる戦勢の沙町については味方よりもむし きわが世紀の攻線鏡頭に先腕してニューギニヤ 者の規律、類生といふことが見一を達成する目的の下に(一)在初 至順な局面に衝弱するに至ったと電腦の危機 占領力至破損して米曽反攻の機先を制する企画 に出てある、臨局は質に軍大であり意思は再び 高速が設め、とくに空車の

き、わが作家が極めて迅速至めに徹底してゐる」とわめ

版は極め無い電大といはねばならぬ

沙泊艇を限へ、さらに『日本軍は巨大な資源の 吸尿石質の中心原態平康の失昭を認め皇間の長

ことを思づけてある

統計數理研究所を設立

東京電話」決盟下車事上、生國 の面において統計数理の重要性 における確認と関する敗却順用しなが、一環として統計数数者の組役での機構を開か開化しわが関ー重要な一環として統計数数者の組 、數學戦」にも萬全の對策

は本生度温力を終いるいて統 「大学のが、文明語」 機的助員を行ってある、わが個に

他の貯蔵配合、輸送の間間底、さ ゆる計量、推薦、板足と向し場合 問題、暗脱の作成、解離などあら 定之國民保御、衛生、榮獲食糧その な確率を與へる重要を役割をもつ 河性検査、財政命中、種形の 機いた 反回線型 飛行士で対する 配着的多な時間で自殺した罪を設 私刑欽認のゲツベルス宣傳相の跡 軍服を着た無賴の 獨、敵空軍の非人道行為を列撃

てをり、敵米國では今次の酸餅を 『腹風歌』と称し科風研究動員の を呼んだがドイツ外務省階層は三 平をる際明は國際的に多大の反響 表した

め位として扱ふより

は個人の場合でも同じであって、

月返一百回の人は月と七士一直、

と対意と

いて反脳軸頭の遮腰を阻止したと 旧軸学軍の非職間員に対する時間日の外國新聞記者叫との會見で反 郷軍はローマ東方六哩の地階にお 外務省営島は軽要に関り「かか

伊西部で激戦 なくなった とうて最早除り取 置主力は腓脱作戦 強したが、カツ

□四分、生活船回部で、税金の二階がある▲町でその内閣は、税金三階

なって、際りの六側四分で税金を

百回の者を一八回といる場合と

四分は多いやうに聞えるが、その

贈書皇 思」ナボリ來位―地中海方面反信 ローマ保護を「リスポ 東敦表 ンに回 つぎの通り競製した イルソンは三日特別 で、「一切の物品松、肌も関係松いで、 は、「一切の物品松、肌も関係松いであるから、脳

【ベルリン三百間盟】郷取留局部

げて猛攻

敵全軍を撃

は三日イタリヤ戦戦の配別をつぎ

反協軸軍攻勢の頂軽は依然とし て四部地域に集中してあるが、

関内においてローマ市関局は作機的要求と一 防閉を迅ばするなら でもなく、貯蓄は税金とは遊び、 金である▲六月は常照月だが、欧 に生活動を切削めれば、貯管は更 道はない、こんなことで戦争に勝 利子までついて戻って來る自分の も、破なもの人ない皆合であって ろばないし、着物を新聞したくて みに行きたくても、飲ませるとこ 大徹の標準であるから、これ以上 く程のことはない人然し、これは

ら三日間、駐瀬駅駅田を開催する 際に関し鮮湖一如の類似において 湖の開係官が一堂に黎集し五日か 物質の亦能、地震、在瀬平島人園一部(こ)計建物質の功能での他国一決盟の現民間と説明し組織を結び一年的人園兵間の利用(1)物質を一 **顾者の協力により取力増弱の目的** 殿督府情報跳から 三日間協力方策を協議 一・満州威政府・関防院部が開教 度角田忠夫、文教部必然司長位 二 「高法部刑罪司長太田前追、顾恩 「司法部刑罪司長太田前追、顾恩 「司法部刑罪司長太田前追、顾恩 会議論に於て協議議談を述べる城、六月五日より三日間本府第一 奥事質につき 第て 鮮褐銀酸質を 計班中の協合回綱洲國側関係官來 ととなった、出版者の氏名左の通 長古海思之、同企發因長高倉正 問題事官山崎朝、野務総局登事 佐藤阿美、安東省次是 **配出名物第、 [8] 人名朗曼** 朝鮮總督府 政務級監田中武 在城大顷路 大顷路沿岸官花

> 際施設及び中郷方法等につき具さ らは施設候補地温を観察、航汽局のて現地を開察、同十時五十分か

の説明を行び、和かな雰囲気の中 側から低車航急計量を説明、交通

生院育員、同十年東 採束京文班大教授、同 昭和三年歐光各國へ出

投下爆弾六千トン

午前十時一間打御

情報課發表っるの如く競製した

郷工局長江口親級、閩南局長層一と検討、正午亦治局長招待の午後 別が出 地域型

**澗次即、營証陸軍大佐澗水孝太** 

一五日は子刺十時から登録を海明、 世の水り最めを行ふ、九味電日哲 世の水り最めを行ふ、九味電日哲

機動ン画

ルト

海洲に投下した<br />
無難は六千トンに

じたが過去卅六時間と米間が四

に浴した ・

爆弾を加へ一千五百トンの爆弾を

て西欧洲沿岸地區に二回にわたり

新潟布紙

柳威で昭和三年

| 関機隊は二百五十機前後の『祭の 第一英本土 をお知とする 米取場

一骨の病の手盤法」勝手選呈

要な。リペレーターの経験をもつ

肥著族に耐し武器は ン死位ールーズベル

につきの話つきの

死性=米國 陸軍航空版 本部は三

消炎 無常安 かタル

肋膜炎炎

社會式為業工藥布巴本日

【リスポン四日問題】ワシントン

ソ聯領内に米基地

適應症

にある米國陸市航空原所配の市場門次の通り総製した、南イタリヤ

自に米國は反復軸語一日以降四月一日ま

七千機は現金取引におり、日本の大学の一日本での 年三月三十一日武器 现了一般办式器質與 十四百艘の飛行機を 間機及び戦闘機の経験はルーマニ ヤの敵目標を攻略したのちンピエ

錄戰血 ト領内の基地に釧瑙した との位置をすればよい かと惑ってゐる人がむ

法にようて供給された

徒

は、牧人の三脚八分を応ぎれば 十億國と態定されてゐる。そこで る本年度の國民所得は、さつと五 る三野く分をもてなければなら 大個のないであるためには、必 いのだ人つ悪り、半島内におけ りはせぬか。早くいへ 簡便な湯布紙

② 一四五十級

1



たけるのではいませんとは

門東製 第合名會 趾









されることは必然で

年何期間(全部)から欧盟間

ひ込んできた『おゝ、一張いぞ』島に頼いた途端にふともら を壁であった『決成官権は我等の手で』と、黄帝の一角

得ないが、こくに養る思術最らが火が生物の決断機能が代えている)の横行、これに特に別語で稀い問題、保い国際するとかが決したいたるるをがれた、この他、推断していることが決したいたるるをがれた。この他、推断して びょう 消費針 (戦闘など)

に一つの示唆ともなれば幸せである「経典」グチの勝干加

海に闘ふ最後の五分間

は、との疑問に答へてくれた管集 は『不能の『学だった、全年は

皇族方も御献詠

**尽能断】婚國神社第卅回** 

以下階層ならびに預選者摔跤に整選、駅間、宮

三千六百に選し、預懇歌中には用方に・北郷に 十一方の御献献および全國一般、原生の献謝 して古式床しく行ばれた、本 生民の脱版は三安宮段下をは 、披陸役所通用遊客ら金別 節省周茂、原田海町省副 司説能を奏し、酸かに関係然を執行、終って同十

心的問題の忠策に割する感謝と米が呼吸と遊戯

以下階級の理麼語つて式を終了した て開鑿大削に築献宮間以下採躍、顧師子集所明 被断、次いで階役の戦闘体権通歌を機能し終っ 秩父宮妃勢律子殿下

高松宮妃喜久子殿下

せんとの気候に充ち得ちてゐる、定刻鈴木宮司 △一般の部 日のもとにたくひなきかな学ことに日のもとにたくひなきかな学ことに 預選歌

前線将兵は榮に輝く

脚奈川縣足柄下那溫泉村大平台 脚奈川縣足柄下那溫泉村大平台

受力等を担合されていた。 かしてきないつ何を言うして、かしたる限めおとりてきかのなり 野、尻、信 でかしたる限めおとりてきかのなり などをまもむせひ泣くらむ位出

**敬りますらむ靖國の**解 臺軍の戦ふきはあ天翔り 南交派處

△學生の部 △出征將兵の部 、御頭の碑となりしますらを かぎりなきあまう光を身にうけて 山 \* あ後継かむと吾は賽ひぬ婚姻のかくみの光仰きつつ 电元型

即 子で本名 欽

間り離り末のするまで男の子等が 道一筋に応てし脚を 比島派遣陸軍上等長 深外緊心道 Œ

外川

代々うけつきて関節らなむ大震に挙げつくしし関心を 陸軍攻器中佐

神と共に無滅に上昇し、士 歴生 といい、これを唯一な不適の原因 日頃から漁場に入るのだが、その の高温を越えて十三世半であつた としてゐる、こゝ死中島は五月廿 例年に些層 男も広も随志徹々たる漁場をある

放く意象は不能等で微層もゆる それは、といる氣根が溢れ、勝ち と今年は不識であっても「東年

ある、従って流戦も少い、刎年ないがあったことは認められるので

しもいってあた、水温の曲線と狂

間にか行はれてゐるのだ

組合の関語が

ナ漁例を展開するのであるが、 金階をはじめ四海岸の各道が らは経過期には約一千隻の漁船が

し寄せて日に大り別れは個なるグ

で買って行くのである。

逞しい向上なり

らつ、この際ひに答へるものは握

の地震戦士の『頑張り』であった

第一班【層岡姫郎】 温波励齢問但高宮本社々長が半島。今主要輸出において日夜増蔵に街 き場所を挑へて、さきに概要は第一個間に順来したが、更に能問題下

The state of the s らう、しかし恐れてはならぬ、脛骨の決は大ポレオ 学典が必至である限りわが第二もまた機能されるだ 防火第一主義だ

飛行機による場際は決して、戦争の最後を決定する

ものではない、前欧洲大戦の切札は機関的だった、



火第一主要行 である。質問で かねばならぬ

四地派遣慰問隊、各地の報告 

くの未經験で飛峽會の席上一

際原角部小坂鐵築所を、東北弧の二行は一日秋日 活躍したことがあり、その経験を 劇所長、加藤副所長はかつて朝鮮 において茂山顕美所の所長と の計算を換は活機であったが、

を天々説問した、尾芸術 する領域が見受けられた

あることも特異な財である、砂るが、尾去ゆでは全部では全部では

が動当に多大の期待をかけると同じの場合に多大の期待をかけると同じ

では、一般の表情では、一般

本田病院為於 開業廣告

(二交際學博士本田建義病院跡) 京城府中區黃金町二丁貝二四八 京城府中區黃金町二丁貝二四八 (※前市場)

(和信前朝興銀行鍾路支店三階) **尺城府鍾路區貫鐵町二九六** 住友鑛業株式會社朝鮮鑛業所 謹 告 所 儀

地理の形を助ねを記者は、初めてみる核腫酸剤制の大種観に散闘する海の増産脱土に戦略を込めてくらう、漁場の話 にいった、一般が過であるのに、例写上り半数の、微略と、工事」一層本特別質問一個問題になが、一般の戦士学は、これは例写中生分位ですよど、に一つの元時ともなれば単せであ

年こそは

た、北部のいわいの間には過

る、延坪陽漁業組合和田理版は

まで風影り

あるのである、そのねばり頭い

既には飛行機に移行した、飛行機でも販貨を決定づ

それが軽機になり電ガスとなり配里になり、今次大

けることは出來ゆ、マドリツド、重要、ロンドン、

最後の芸師

極く潮灼けした極黒い即を時々流に捌けた網を修理する手許ら

あげない所以をよく恐へて見ねばなられ、郷曜だけ

に足らぬ難へがあり自ての威。酸に十分の目信があ

の經殿による『戦』でつぎの大調

度の大湖に成果はなくとも永年

に強いがこれにたしかに風滅であ

語道 南西の神合で 各班レレト | 際に 包閣を威威を 原則するので 下配らずの延伸島、この周奏の神 | ちゃを退って肚供な過度観を復行 | 従って延即島神台」そっくちが延 とそろうの医療場である。 間里,定置「数四百、人口二| 微素の火薬に切られ北上する。~ | (卒北)と出るが、これは澤くがい る大類に乗って北上を開始 ぐち、と取組む强者達 ある、ことで網の目を潜つた一部。場の今年の漁児を廿年來の「不漁」 し、五月下旬、こと延坪院で一翻打一勝の闘ケ原であり、ことでその年

の決は主められるのだ。その決成

のぐいちくは頭に北上し文部連合であると、鼠の観光はいふのだっと、晩飲を測らすのだった るもので、もう語るはない 質、金額にして約百萬國の水場 共不施だった。例年は約八十四

際に出催するのだが今年は1回

大攻勢は沿産

の切羽、切羽を浜敷めて、殿 灰偏なのだ

「不一個、路景、頻楽物が供へのた

交弯、北川軍、竹屬、季

いめ遺跡、親戚知口問題生の

石かんなものであらうか、配着は ふ石炭配士の勢害に乗してど の出版例を三倍と引上の200萬

が六月の後風とさななのやうに、るのである。千六日政党の職人ないたが大部域できょうの領域、増加への高が成場して際はれてるのである。千六日政党の場合とは、いまをさかりの領域、増加への高さが減して際はれて日本を分から そよいである、 だがーン の草原の間内に呼る四、五尺から世代と 心言行炭酸士=金字特(上) 炭を一日も早く地上と細り出し一

力の前長にから前線の職人 〇〇茨属を明れた「大阪一部 の形行機を上と一直車の石炭 なくて戦もたければアルミもでしとの血の叫びであるとも 験を必要とするのだ。されば、それを身を引て把へんものこ 【政義特派員記】石炭上石炭 らの叫びはまた『石炭を輸む を要する。そして一個の動送

切羽に肉彈で突撃 やな、に挑む男の聞ひ

成のためには地下にかく合れた石 した民物であるが、レカレ米芸等 生れてもいり出きまという 出演計数が質別してもおそらく目

これを中心に石一片、石一片、

るまっとしての機能化は遅れて

い四部人近、うつかり紫人好人の関心であり終端を以てする突縮

現して、範囲を耐に抗内へ避破す

ら地下の銀路ともいへる文字面

い、それは必くまで自然に挑む男

林大將の餘葉型

る五月世一日逝去した

が路を思るされ、四日左の

からの

加之陸軍大将の排隊は四日

解酷」安月世一日逝去した

時年から青山郷場で荒木大阪

高長となり暖かと勢であれ

六百万季五、六月の地域と 地層の意化が関しく、強いて変 第0個地と形されるのがこの00 かりと概念はり、その態を地震 のくを求くに気が然、しからして、こ

してそれだけの出版を選択してあ 傾斜をりて抗災が延びてある。 地中深く悩だけるこの炭管のが

たして意味と同意と加強・共通・と見るそうな所閣(なんだ)と称と決議を辿って「関係と加め・大きな単元ではなく」を決定した。 くの炭腫や、西燐無湿炭田の **暖在式採炭方法であって内地の名** 無と関係をおいて用りだっといる て豪観目型と切られた炭屑を一脚

ところでこくの探索は坑道によっ で迷び見になることは必定であ 理能と言いた問題に張り始まする 機械への後間的勢動ではない、重 篇礦炭

されの歌は、歌歌したは言の歌歌(へさむるのだ、歌は、さうだ。 「何な、人間ともが、他は何千 「何な、人間ともが、他は何千 かりと正義に縁てべつてゐるの といはのばかりに次々しく構たは

院 名字も生き居り、助い ってゐるのだ、時折は人間共の不 温暖ではあるへして來る。いった

夜明け、どからてたしか

いてをり、高して來る、仕様夫の はさらいつてあるが、午後三時ご

きる一種がかくつて來る」」して やらにくやまくにも地域の選上が

数型するのである 不正は、こんな時後間の関する

てゐるのだ、海に湖の始于がふる

『影解すり他いのはガスですな。一次一颗は、時が聞き上り難いと

五流律助坑の若い撤貨保以官太古和着の復自として応介になった第

がなまり、といふのが、関係出身 た、四年の過去な変えて つかねことをやらかすのです ないんですがね、他れるとおきれば怪我人を出すやうなことは に補脂になって、時折収返しの

さと、陰気で得た技術者としての 自信める話しぶりは記者よりも二

つ年下の世だといふのと何だか のために悪い気がめがけて強しく

一べんに吹き飛ばられて・南 る、道で、見は、見はこ

今は押び地底の殴士として殴って

Prox.

いる単層口間からは見け切れない ひ出させる味の響ではある、だが げる蛙の騒だ、何生むできくこ とか、それは強く内切の故郷を想 風味さらな影局がきこえて灰た、 こえて來る、なつかしい率的を告 しなし、いまれたほこの地域には おかませば近に 明の 吸がき

変の際いるなく、夕刻六時入坑し 之二番方好像定出炭OODO確保  た際戦の終土でもある宮本さんは 脱玻険事件と大規能競争の影強と 回召集されて昨年秋解除となっ ですよ、その代り無路はウンと 茶を一杯製んで出かけるだけ

がつたです、驚眩の後でこの場

ですよ。おやからマッチも知罪

したかなア、馬鹿な奴が居を

で多少くやまりの影響があつたと

らや意際、淡は出ませんからね で落てのますよ、それに食糧の がわしはギリく一杯の大時ま エ、いやもう概念せつ、お休み 

監を消して間もなく、宮本氏の

移 輔

略和十九年六月五日の粉料仕候用此段誕生候也の終れ合に依り左記に移轉仕候用此段誕生候也

即の運搬的の半数以上である、と 語はこの脳の船を海賊脱と消して **見つたり、質つたり砂糖俗斎な取を舞うて巧に異漁り、二度三意に** ふから深くべきである、日の人 でするのである、この開始は全

賊脳をこのまゝにしておいてよい 海の均産第一級を跳響するこの海 のだらうか、日の人達は手のつけ 多数の販売の 「解費事犯として取締れば」

> たこの海賊脱な闘事として取締る| 制設派は供出經濟である。といは

められるのである、神貿ひの問題 面から戦でも刷新強化の必要を認 級は法規、機能その他全面的な整

京、本年度内地高な大學校に入學

信があった場合は所轄繁奏等の許して送らぬものがある、こんな通 は衣服の桜出は出來ぬものと誤解

京日業内社会(現)

本鑛業。會社

である、何故か、和田理斯は

秩序はこれを許さない<br />
だらう。<br />
新一といるが<br />
現地で限る<br />
半脳水産戦

在京半島學徒

新入學歡迎會

と答へるのであった。だが節後の ために関係には困難だ 総合。を作れ、と呼ばれてきたの 既に昭和三年ごろから『運搬版取

等は神質ひの丸公一貫、一風一

である、簡繁所でも研究してある 第廿三同朝鮮美經展體會 は半島製物の最高的を集

三方海に面してあるのである、こ

てゐることも事質である、半層は

開閉せず早決送つて近ひたい

また研究院的知道を受からは後

食家家を受益学便水道場合方式 不問 益善町一六六ノ六五 大城 不問 益善町一六六ノ六五 大城

安否、殿村の姿

など知らせると ることが記ましい

載士を慰問激励文を送

女中、疫苗等系统淡点。

描置b 描置b 理 搬

清裁生徒募集

可さへあれば送れるのであるから

終に埋まる概管庁美術館のて四日午前九時から新

で蓋をあけた、入場者は といふことをといることを

Ĺ

5

意欲

海軍特別志願兵受験の壯丁

ク衝突

トラツ

一展鮮人眼らかし。 を戦決むじにに面畫 を戦決むじにに面畫 を変況の変況を表現した。 を表現した。 を表現し。 を表現した。 を表現した。 を表現した。 を表現し。 を表し。 を表現した。 を表現した。 を表現した。 を 横套のトツブを切つて観測の微 観遊電話】 背烈なる海の決議場 検査は三日午前八時半から叙海 砂集した初の海田特別志順兵衛 風に質加された、能力、 解校職堂でOO名の出丁に異

が過半吸である、各肚丁が言烈多少思はしくない、職業は農業

過事是日常市

値と響ぶため太 が、変江の砂を

を護中、学 撤退して明備で

**叫旋图大門行京匠** 

類 戦線人大震災ので、 の 戦線人法と

二五號一號學是嚴重 一公正

前面右側を吸退、電車腕客中、大面面突しトラツクと電車がともに

午後一時半から世分除にわたって 任は受極状況につき左の如く威都に 然言に検査状況を観察、志願者を 在についで口頭配問があり適任 接頭式を製行、午後五時過ぎ の豫算決定
月州日那曾 場に申出れば受験出來る

> を受けるの他三名も戦闘を負った 題と大腿部に全治一週間の打機協

整言論に

称者を受入れたばかり、いはご全 E Nutringを持つてあることが見受けられた。 その強くが事業型である。 れた、總常與額一萬二十九百國中 一般人出源質費が開催さ

門: [一黒瀬登 [ (%o)] 数論三本三榮郎(?o)

神
関
本

し、機部忠正

【大山(秀)特派尚級】 在内地华 着替衣送れ 郷土への傳言 とも射と保合網狀 るので一般に一般 で観じ一般

島西郷版士から郷土へのお城ひー

労戦関隊として政闘してゐる半

み結のまくで死てゐるため作業服 殿配士遠は内地の事間にうとく、 元 小林新 - 語 別 第、称 寄引 別 第、称 寄引 別 第、 第 第 引

三次

| 謝意を表し中候 尚本自出發の際は 態々御見送場はり併て御顧申上候 一巻の處 牛略儀以紙上 深書の

紫龗は紫緑緑緑緑色の野株金拂込未濟に付公告 三菱商事株式會社

輕金 東洋輕金屬株式會社